

# 平成30年度 上下水道部 方針書

上下水道部長 池田 智

## 1. 部の使命（役割）

安全な水道水を安定供給するとともに、生活排水を適正に処理することにより公共用水域の水質保全に努め、健全な水循環を構築する

## 2. 平成30年度における課題（前年度の振り返りから）

- ・上下水道4事業の経営戦略の見直しと集落排水事業の地方公営企業法適用後の適正な事務執行
- ・水道事業ビジョンの施策展開、及び水道事業計画に基づく進捗管理と実施の評価
- ・集落排水施設統合の基本計画策定及び、ストックマネジメント計画に向けた取り組み

## 3. 平成30年度の『スローガン』

『快適で安心できる暮らしをお届けします』

## 4. 年度目標となる方針（目標）

- ・上下水道事業の経営健全化と安定した事業運営の推進
- ・水道施設の計画的な整備と安全で良質な水道水の安定供給
- ・生活排水処理施設の計画的な整備と、持続可能な排水処理システム構築への取り組み

## 5. 重点取組項目

(1)	項目	上下水道4事業の経営戦略の見直し
	取組内容	・経営戦略策定以降の決算状況や、新たな整備計画を反映させた投資・財政計画を作成する（H31～H40） ・水道料金改定の判断材料の基となる料金シミュレーションを作成する（最終判断はH31年度末を想定） ・経営戦略の振り返りを実施し、必要な部分の見直しを行う
(2)	項目	水道施設の効率的な整備と運用
	取組内容	・事業計画に基づく計画的な施設整備と未普及地域の検討 ・更新までの現況施設を効率的に運用するための維持管理方法を構築 ・安全な水道水の安定供給に向けた事故被害の局所化検討
(3)	項目	持続可能な排水システムの構築
	取組内容	・公共下水道事業中期計画の推進とストックマネジメント計画に向けた取り組み ・農業集落排水施設統合に向けた基本計画の策定と不明水対策 ・都市下水路のストック点検と浸水対策の検討 ・浄化槽の普及促進と市設置型浄化槽の譲与に向けた取り組み

## 6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況【現状】

### 《上下水道4事業の経営戦略の見直し》

- ・各事業の整備計画やこれまでの決算状況を反映し、投資・財政計画の素案を作成した。
- ・併せて、料金体系の検討と、料金収入総額の確保を前提にした、複数のシミュレーションを実施した。

### 《水道施設の効率的な整備と運用》

- ・(仮称)雄物川浄水場の建設に向け、水源調査の前倒しと、国交省との取水箇所の事前協議を行った。
- ・工事の早期発注・完成を目指し、対象工事20件中19件を発注した。

### 《持続可能な排水システムの構築》

- ・ストックマネジメントに向け、資料収集～対象MH・点検項目の検討～基本方針(原案)の作成を行った。
- ・十文字地域雨水対策に向け、計画策定業務を発注し実施方針を検討、危険箇所の現地確認を行った。

## 7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

### 《上下水道4事業の経営戦略の見直し》

- ・経営戦略改訂版の素案作成～関係課協議～政策会議～議会説明～上下水道事業経営協議会～公表。
- ・料金改定は平成38年度になると見込まれることから、新たな料金体系を提案するシミュレーションを作成。

### 《水道施設の効率的な整備と運用》

- ・水源調査～予定地決定、調査～地権者交渉～国交省と再協議～次年度の認可変更へ反映。
- ・適切な工程管理と安全管理を徹底し、12月末までの工事完成を目指す。

### 《持続可能な排水システムの構築》

- ・意見集約～スケジュール検討～計画策定～重要幹線(H3以前)MH点検、MP健全度評価の実施。
- ・十文字地区排水系統見直し～地区雨水計画を策定。また、雨水施設ストック点検や土砂浚渫の実施。

※MH:マンホール MP:マンホールポンプ

## 8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

### 《上下水道4事業の経営戦略の見直し》

- ・経営戦略改訂版及び料金改定シミュレーションを作成した。
- ・水道料金については、平成38年度に料金改定(改定率9.86%)が必要との試算となった。

### 《水道施設の効率的な整備と運用》

- ・一年前倒しで水源調査を行い、次年度の認可変更や浄水場の基本設計の基礎となる水質や水量の結果が明らかになり、早期の取組みが可能となった。
- ・早期発注と適切な工程管理・安全管理を徹底し、概ね12月末までに工事を完成した。

### 《持続可能な排水システムの構築》

- ・ストックマネジメント基本方針を作成し、実施計画への取組みが可能となった。また、重要幹線(H3以前)のストック調査を実施した。
- ・十文字地区雨水計画を策定し、次年度以降、順次、対応していくことが可能となった。